

令和5年度 SSH 生徒研究発表会 実施報告

山崎 皓

1 目的

課題研究の成果についてポスター発表を行うなど全国の生徒と交流し、科学への興味・関心を高める機会とする。

2 概要

- ① 各校用意されたブースにて、ポスター発表形式で課題研究発表を審査委員や他校の生徒に対して行う。
- ② 各校の課題研究発表を、ブースを回り見学する。
- ③ 参加校の中から選ばれた、各分野の代表校の課題研究発表を聞く。

3 期日：令和5年8月8日(火)～8月10日(木)

4 場所：神戸国際展示場 1・2号館（兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目11-1）

5 報告レポート

会場までの経路は、北陸新幹線（飯山—金沢）、サンバーバード（金沢—大阪）、JR 神戸線（大阪—三ノ宮）、ポートライナー（三宮—市民広場）を乗り継いでいった。初日は会場での前日準備やリハーサルを行った。学校で練習してきたことや、役割分担などをチェックするなかで現地での雰囲気を感じ、他校との交流も行った。

発表初日の2日目は午前の部、午後の部と2部構成のポスター発表が行われた。生徒たちは他校の生徒や教員、または審査委員に対して堂々と発表を行うことができた。メンバー全員が自分たちの研究についての理解を深めており、様々な質問に対して的確に回答することができ、発表者・参観者ともに有意義な時間を過ごせていた印象であった。また、同じ時間帯に他校のポスター発表の参観も行った。生物分野の発表が多く、次いで化学、物理、数学、地学であった。数学の発表では、情報技術に関するものや、AI、ビッグデータ、プログラミング、アプリ開発など今後の社会に役立つ発表が多くみられた。その一方で純粋数学の発表グループが少なく、少し寂しい印象も受けたが、数学や情報を社会問題などと融合し、実用的なプラットフォームを研究している高校生を見るととても頼もしくも思えた。他校の発表を聞く中で、疑問や新たな発見があり、質問やディスカッションを通して交流することができたように思える。



3日目は代表校による全体発表が行われた。各分野の中から選ばれた発表はレベルも高く、実用的な内容から、大学での研究に匹敵するような内容があった。ただどの研究についても、動機がはっきりしており、研究を進めていくうえで、何をどのようにすればいいのか、実験はどうやり、データはどのように取り、どうまとめるのかなど課題設定を高い水準でしている印象があった。

3日間のなかで生徒たちは多くの発表や人たちに触れ、たくさんの刺激を得たように感じる。これまではなかったものの見方やアプローチの仕方、感受性や考察力など数えきれないほどのモノと知り合ったと思う。これからの未来に期待したい。